

インプラント
ニュース



since 1972
Japanese Society
of Oral Implantology

第4号

平成18年8月10日発行

Implant News No.4

(社)日本口腔インプラント学会会報

発行人 川添 堯彬 編集 (社)日本口腔インプラント学会広報委員会
事務局 〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 芝コトブキビル301
TEL. 03-5765-5510 FAX. 03-5765-5516

Eメールアドレス : jsoi@peace.ocn.ne.jp

【本号のトピックス】

社団法人日本口腔インプラント学会法人設立記念祝賀会のご報告、優秀研究発表賞・デンツプライ賞・学会優秀論文賞・学会奨励論文賞受賞者紹介、第36回学術大会(新潟)のご案内

社団法人日本口腔インプラント学会 の新たな船出

昨年(2005年)は日本口腔インプラント学会にとって歴史的な一年となりました。すなわち、第一に本学会の長年の念願であった日本歯科医学会専門分科会へ加入が承認されたこと、第二に社団法人として文部科学省より承認されたことにより、本学会の益々の発展が期待されております。会員の皆様をご存知のように、社団法人として承認される前には学会内での意見の対立もありました。しかし、この困難を乗り越え最終的には会員が団結して本学会が社団法人となったことにより、本学会は大きく前進することができました。それを記念して、2月20日(月)に東京の帝国ホテルにおいて、「社団法人日本口腔インプラント学会法人設立記念祝賀会」が盛大にとり行われました。

また、来る9月15～17日には、第36回学術大会が新潟で開催されます。

日本口腔インプラント学会会報であるインプラントニュースは昨年の2月発行の第3号が発刊されて以来1年以上が経過しました。本学会は社団法人となり新たな船出をし、学会の益々の発展が期待されております。このインプラントニュースは学会と学会員を結ぶ大きな絆であり、インプラントニュース第4号を発刊できましたことは、広報委員会にとって大きな喜びであります。

広報委員会の役割としては、本インプラントニュースと学会のホームページを通じて会員の皆様に学会からのさまざまな情報を提供することがあります。今後は定期的にインプラントニュースを発刊し、学会のホームページも更新していく予定です。社団法人となった現在、本学会が学会員のために学術の場として機能するだけでは十分でなく、本学会には社会的な貢献をすることも求められています。今後広報委員会は、本学会の社会的な貢献に関しても活動を拡げていきますので、何卒宜しくお願い致します。

これからは社団法人として活動しよう！

理事長 川 添 堯 彬

8月15日は何の日？平成17年8月15日こそ、平成15年4月以来の法人化目標の本格的着手から優に2年4か月をかけての努力の末に、遂に文部科学省から社団法人格の認可承認を受けることができた、記念すべき日であります。改めて各方面の関係者ならびに会員の皆様へ衷心より感謝申し上げます。

さらに本年2月20日に東京帝国ホテルで開催しました「社団法人日本口腔インプラント学会法人設立記念祝賀会」には、行政、大学、他学会、歯科関連業界等の各界からの多数のご来賓や本学会会員のご臨席をいただいてこの上なく大きな盛会となりましたことも、誠に感激、感涙の極みでございました。

これからの本学会の進路は、申すまでもなく、このたびの千載一遇の僥倖のごとく賜った社団法人という強固な基盤と、右肩上がりの会員増加による大きなパワーと期待を基にして、一段と積極的な活動を展開して社会と国民に広く貢献してい

かなければなりません。

たしかに学術団体としての「学会組織」の大きな目的は、口腔インプラント学・治療に関する自己の専門知識・技術向上を研鑽する場であり機会であることは今後も変わりはないでしょうが、これからはそれだけでなく公益性のより高い姿勢と行動が求められます。それらの積み重ねによってこそ、歯科医師およびインプラント専門医に対する社会からの信頼性獲得や地位向上が得られるものと確信しています。

本学会の今後の活動目標についての全体概要は、日口腔インプラント誌18(3)の巻頭言「社団法人日本口腔インプラント学会の責務と今後の目標」に掲載しましたとおりですが、これからは本部、支部ともに社団法人としての意識改革を図っていき、これらの「5本柱の目標」を積極的に実行しようではありませんか。

これからも何卒温かいご支援を切にお願い申し上げます。

社団法人日本口腔インプラント学会 法人設立記念祝賀会 ご報告

社団法人日本口腔インプラント学会法人設立記念祝賀会は、2月20日(月)午後6時より東京帝国ホテルの富士の間において行われました。

来賓招待者58名と学会員170名および協賛企業35社からの出席者を含め約300名が集い、盛大な祝賀会となりました。祝賀会の式次第と祝賀会の写真、来賓招待者氏名、協賛企業名を掲載しました。

祝賀会式次第 (敬称略)

開会の辞	理事	山上	哲賢
理事長挨拶	理事長	川添	堯彬
祝辞	日本歯科医師会	会長	井堂 孝純
	文部科学省	学術助成課	課長 杉野 剛
	厚生労働省	歯科保健課	課長 日高 勝美
	日本歯科医学会	会長	斎藤 毅
祝宴 乾杯	名誉会員	川原	春幸
閉会の辞	理事	添島	義和

祝賀会写真



祝賀会受付 風景



祝賀会 遠景



開会の辞 山上 哲賢 理事



挨拶 川添 堯彬 理事長





祝辞 日本歯科医師会会長（代理 蒲生 洵 理事）



祝辞 文部科学省学術研究助成課課長 杉野 剛 氏



祝辞 厚生労働省歯科保健課課長 日高 勝美 氏



祝辞 日本歯科医学会会長 齋藤 毅 先生



挨拶と乾杯 川原 春幸 名誉会員





「インプランターズ」によるジャズ演奏



閉会の辞 添島 義和 理事



理事および本祝賀会準備委員 集合写真

祝賀会：出席者表（敬称略）

○来 賓

前厚生労働大臣		坂口 力
衆議院議員		小野 晋也
参議院議員		三浦 一水
前参議院議員		大島 慶久
文部科学省研究振興局	学術研究助成課長	杉野 剛
文部科学省研究振興局	学術研究助成課	福元 紘一
文化庁長官官房	著作権課長	甲野 正道
厚生労働省医政局	歯科保健課長	日高 勝美
厚生労働省医政局	歯科保健課課長補佐	田口 円裕
厚生労働省医政局	歯科保健課	大坪 真美
東京歯科大学	学長	金子 讓
大阪歯科大学	学長	今井 久夫
愛知学院大学	歯学部長	亀山洋一郎
神奈川歯科大学	学長	梅本 俊夫
東北大学	歯学部長	渡邊 誠
明海大学	歯学部長	安井 利一
昭和大学	歯学部長	宮崎 隆
東京歯科大学病院	病院長	石井 拓男
（社）日本歯科医師会	会長 井堂 孝純（代）	蒲生 洵
日本歯科医学会	会長	斎藤 毅
（社）日本口腔外科学会	理事長	瀬戸 皖一
（社）日本補綴歯科学会	理事長	赤川 安正
（NPO）日本歯科保存学会	理事長 恵比須繁之（代）	勝海 一郎
日本矯正歯科学会	会長	相馬 邦道
日本口腔衛生学会	理事長 中垣 晴男（代）	松久保 隆
日本歯科理工学会	会長	小田 豊
（中間）日本小児歯科学会	理事長 大東 道治（代）	朝田 芳信
日本歯科医療管理学会	会長	高津 茂樹
日本障害者歯科学会	理事長 森崎市治郎（代）	向井 美恵
日本老年歯科医学会	理事長	山根 源之
日本歯科医学教育学会	理事長	江藤 一洋
日本顎関節学会	理事長	石橋 克禮
（社）日本歯科技工士会	会長	中西 茂昭
同	副会長	齊木好太郎
（社）日本歯科衛生士会	会長 金澤 紀子（代）	相川 敬子
全国歯科技工士教育協議会	会長	末瀬 一彦
（NPO）日本顎咬合学会	理事長	上野 道生
日本歯科審美学会	会長 田上 順次（代）	長岡 英一
日本全身咬合学会	会長	石川 達也
日本歯科技工学会	会長	阪 秀樹
国際歯科研究学会日本部会	会長	大谷 啓一
日本歯内療法学会	会長	市村 賢二
日本小児口腔外科学会	理事長	千葉 博茂
日本レーザー歯学会	理事長 橋本 賢二（代）	永井 茂之

日本口腔病理学会	理事長	山本 浩嗣
日本歯科色彩学会	会長	片山伊九右衛門
日本有病者歯科医療学会	理事長	白川 正順
(NPO) 日本臨床歯周病学会	会長	船越 栄次
日本外傷歯学会	会長	木村 光孝
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会	理事長	金子芳洋 (代)
医歯薬出版 (株)	執行役員	向井 美恵
(株) 永末書店	社長	水島健二郎
同	副社長	永末 摩美
(株) 日本歯科新聞社	代表取締役	桂川 啓子
(株) ヒョーロンパブリッシャー	取締役社長	水野 純治
デンタルダイヤモンド社	部長	高津 征男
(有) 医学情報社	代表取締役	佐藤 進一
(株) デンタルリサーチ社	月刊デンタルパワー 編集部次長	若松 明文
(財) 口腔保健協会	事務局長	堀野作二郎
日本接着歯学会	(お祝い金)	大沢 一男
(NPO) 日本咀嚼学会	(お祝い金)	

○協賛企業

(株) アスパックコーポレーション	代表取締役	嵯峨 親幸
(株) インプラテックス	代表取締役	高尾 親久
クインテッセンス (株)	代表取締役	佐々木一高
クロスフィールド (株)	課長	石郷岡 茂
(株) ジーシー	常務取締役	広田 一男
(株) タスク	代表取締役社長	塩田 英雄
デンツプライ三金 (株)	営業本部長	村本多佳史
日本メディカルマテリアル (株)	デンタル学術営業部責任者	山崎 敬和
同	歯科営業支援責任者	大野 芳裕
大信貿易 (株) 福岡	代表取締役	中野 秀昭
(株) デニックス・インターナショナル	営業部部長	井上 和典
ノーベル・バイオケア・ジャパン (株)	代表取締役	嶋田 敦
(株) 白鵬	取締役営業本部長	斎田 泰利
同		郷原 邦宣
同		山本 哲也
(株) プレーンベース	代表取締役	佐宗 隆正
(株) モリタ	副社長	塚本 耕二
同	取締役	相良 弘晴
(株) 横河マテリアライズジャパン	代表取締役社長	尾崎 浩明
和田精密歯研 (株)	代表取締役会長	和田 弘毅
同	インプラント事業部部長	栗村 公男
(株) ヨシダ	学術営業推進本部	
	大学営業部部長	大島 雅之
バイコン・ジャパン (株)	取締役	寺崎 太朗
アサヒプリテック (株)	貴金属事業本部課長	橋本 寿光
(株) セキムラ	代表取締役	関村 正夫

(株) 松風

トーシンデンタル (株)

(株) 日立メディコ

バイオニカ インプラント システムズ(株)

(株) シオダ

(株) 国際アパタイト研究所

アフィニタス・コンサルト (株)

(有) 佐々木広告社

伊藤超短波 (株)

同

(有) テクニカ

ホワイトネット本部事務局

GE コンシューマー・ファイナンス(株)

アサミ・ホーム・メディア

GE コンシューマー・ファイナンス(株)

提携ローン ファンクションリーダー

(株) システムハイデント

(株) OSSTEM JAPAN

取締役マーケティング部長

早川 雄一

代表取締役

斉藤 政之

国内営業本部 XR 営業本部部长

松田 利雄

代表取締役

亀井 弘文

代表取締役

塩田 信博

代表取締役

青木 秀希

代表取締役

大野 哲資

総務部長

堀内 勝

常務取締役事業部長

太田 厚美

臨床治験部部长

岡田 治久

代表取締役社長

木村 誠

事務局長

後藤 哲男

新規事業部

常務取締役

清原 正治

代表取締役社長

蒲谷 清一

新規事業部

代表取締役

市橋 吉則

代表

三輪 利隆

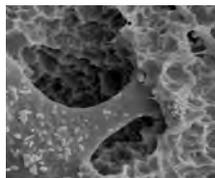
Si Kwon. Kim



ストローマンデンタルインプラント



- 1回法・2回法選択可能な手術術式
- SLA表面構造による早期負荷の実現
- 良好なエマージェンスプロファイル設計
- 負荷を分散させるスレッド部デザイン
- モーステーパーコネクション
- synOcta®システムによる
スクリュー・セメント固定の補綴システム



マクロとミクロ、両方の粗さを備えた表面構造。サンドブラストによって作り出されるマクロの粗さ、酸エッチングによって作り出されるミクロの粗さが骨表面の細胞活性を促進し、骨との理想的な安定性を獲得します。

SLA Sand-blasted, Large grit, Acid-etched



大信貿易株式会社
DAISHIN TRADING CO.,LTD.

本社 / 〒592-8346 大阪府堺市西区浜寺公園町3-231-3
<http://www.daishintrading.co.jp>

販売名: ストローマンインプラント(滅菌済) 医療機器承認番号: 21400BZY00014000

広報委員会からのお知らせ

今年度より、広報委員長が山内六男常務理事より春日井昇平(東京医科歯科大学)に代わりました。以下が現在の広報委員会のメンバーです。

委員長: 春日井昇平

副委員長: 五十嵐俊男

委員: 岸 民祐, 児玉利朗, 嶋田 淳, 十河基文, 内藤宗孝

今後とも広報委員会は、ニュースレターとホームページを通じて会員の皆様に学会の情報を素早く正確に伝達するよう努力致しますので宜しくお願い致します。ご意見、ご要望等ございましたら、以下の連絡先にご連絡ください。

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学

春日井昇平

電話 03-5803-5934

ファックス 03-5803-5934

メールアドレス: kas.mfc@tmd.ac.jp

優秀研究発表賞受賞者紹介



山崎聖也
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔機能制御学分野

この度日本口腔インプラント学会の優秀研究発表賞を受賞させて頂き、大変光栄に思っております。

不幸にして歯を喪失してしまった患者が、欠損機能回復法を選択する場合、残存歯の保護効果は欠かせない決断要素の一つといえます。日常臨床においても、可撤性部分床義歯の鈎歯が負担過重により抜歯となり、欠損が徐々に前方へ拡大していくさまをよく目にします。近年、インプラント義歯の欠損拡大阻止効果が注目されていますが、インプラント義歯装着後に残存歯の予後を評価した臨床研究は本邦に限らずほとんどありません。そこで本研究は、片側遊離端欠損患者に対し、インプラント義歯がほんとうに残存歯の延命に寄与しているかを把握するために、可撤性床義歯、無処置経過観察を比較対照とした後向きコホート研究を行いました。その結果、インプラント義歯で機能回復することによって残存歯（特に隣在歯、同顎の反対側同名歯）の欠損拡大を阻止できる可能性が示唆されました。

今後は、対象患者数を増やし、他の欠損様式も含めた前向きコホート研究を行うことで、より外的妥当性の高い臨床エビデンスを蓄積する所存です。



松下恭之
九州大学大学院歯学研究院
口腔機能修復学講座

このたびは栄えある優秀研究発表賞をいただき、

ありがとうございました。これまで工学的手法（おもに有限要素法や理論解析）を用いて、生体力学的観点からインプラントと骨の応力解析を行ってきました。今回受賞した研究では、アウタージョイントとインナージョイントといった2つのインプラント—アバットメントの結合様式を疲労強度の点から評価したものです。インナージョイントでは嵌合領域が多く、プレロードが失われにくいといった利点がある反面、フィクスチャーのヘッド部が薄くなっているため、機械的強度が低下することが危惧されています。用いられた金属の疲労強度を基本として、疲労破折が生じやすい部位を推測し、実際の疲労試験によりその安全性を検証してみました。

有限要素法を用いた研究をはじめた当初は、カードにパンチされたプログラムを読み込ませることから始まりました。現在は汎用ソフトが解析対象を自動で要素分割してくれますので、隔世の感があります。しかし、要素分割をマニュアルでやった頃の経験が要素分割の妥当性を見ていく上では大いに役立ってくれています。また、教室の仲間とプログラム作製にも携わったことにより、ブラックボックスとしての有限要素法ではなく、その内容が多少とも理解できるようになれたのだと思います。優秀研究発表賞はある意味で、これまで支えてくれた教室の先輩や後輩に対して与えられたものと感謝いたしております。

これからも生体力学的観点から研究を続け、臨床へのフィードバックを目指していきたいと思っています。

デンツプライ賞受賞者紹介



田島伸也
(社) 日本歯科先端技術
研究所

この度、大阪で行われた第34回日本口腔インプラント学会総会において、(社) 日本歯科先端

技術研究所研究部としてポスター発表をしました。演題は「アルギン酸ナトリウムの添加がアパタイトセメントの物性に及ぼす影響」であります。これは、研究部と九州大学歯学部理工学教室（石川邦夫教授）との共同研究で、これまでも継続的な発表がなされてきました。今回その一連としての発表を私がしましたところ、大変名誉なことではあります。思いもよらず、受賞ということになりました。多少の戸惑いはありますが、素直に喜ぼうと思っております。この受賞は研究部と九州大学理工学教室の努力の賜物で、私は運がよっただけであります。この受賞をきっかけとし、さらに研究をしようという意欲がわいてきました。デンツプライ社のわれわれを応援して下さる、会社としての姿勢に敬意を払うものです。最後に石川教授、下御領先生には大変お世話になり感謝申し上げます。特に下御領先生には手取り足取りのご指導をいただきました。ありがとうございました。



山根 進
(社) 日本歯科先端技術
研究所

2005年大阪で開催された年次大会でのポスター発表で、デンツプライ賞をいただきありがとうございました。演題は「バーアタッチメントの維持力減衰について」です。われわれ開業医にとって、臨床でわからないことを解明し、その結果を臨床に応用することがエビデンスの本来の姿ではないでしょうか。われわれは、インプラントオーバーデンチャーの多くの臨床でバーアタッチメントを使用することがありますが、長期経過においてバーアタッチメントのクリップの維持力の低下は避けることができません。そこで、1万回のくり返し着脱を行い、クリップの維持力の測定を行いました結果、次のことがわかりました。1) クリップの維持力自体は長さに比例していたが、着脱回数1万回では長さに関係なく約46%減少し、クリップの長さは3mm以上にすべきであり、維

持力はクリップの長いほうがよい。2) クリップの長さが3, 4, 5mmの場合、着脱回数400回近傍で維持力の減衰勾配値に変化があり。バネ機構の破壊が想像され、それ以降維持力の急激な減少が観察された。3) クリップの長さが3mm以上必要であることから、オーバーデンチャーのインプラント支台は10mm以上離すべきであるという結論に達しました。詳しくは下記の論文を参照してください。

山根 進, 中根高信, 樋口勝規他: バーアタッチメントのくり返し着脱による維持力減衰について; 日口腔インプラント誌, 18: 285-291, 2005.

学会優秀論文賞受賞者紹介



戸田博文
北海道医療大学歯学部口腔
外科学第2講座

この度、平成17年度優秀論文賞を受賞させていただき、誠に光栄であり、心より感謝を申し上げます。また、ご選考いただいた諸先生方に改めて厚くお礼申し上げます。本研究のきっかけは、口腔外科領域の課題である骨膜もなくなった自然治癒不可能な広範な骨欠損部の骨の再生治癒に貢献し、なおかつ組織に完全に吸収置換するバイオマテリアルはないのだろうかということでした。そこで注目したのが、生体内に無限に存在するといっても過言ではない、生体主要有機成分であるコラーゲンでありました。すなわち、硬組織はハードなマテリアルで治すという発想から、ソフトなマテリアルで治すという逆転の発想から、コラーゲンだけで骨の再生治癒はできないものかと考えました。本研究は、自然治癒不可能なウサギ下顎骨臼歯部骨膜除去骨欠損モデルにコラーゲンスポンジ(テルダーミス®, テルモ)を填入し、その効果を組織形態学的に評価した結果、コラーゲンスポンジは初期に膨潤して下顎骨の外形を維持しながら間葉細胞の増殖と骨形成細胞への分化の場

を確保するスキャホールドとして、骨欠損部の骨再生に貢献したと考えられ、そのことから臨床にもさらなる応用が期待できるものと思われました。

最後になりましたが、本研究の機会を与えて下さり、ご指導、ご校閲を賜りました有末 眞教授、村田 勝講師をはじめ種々の協力を頂いた教室の諸先生に、そしてテルダーミスを提供していただきましたテルモ（株）（東京）に心よりお礼申し上げます。



宮本洋二
秋田大学医学部歯科口腔外科

この度は、平成 17 年度（社）日本口腔インプラント学会優秀論文賞を受賞させて頂き、誠にありがとうございました。

実は、以前に私はこの賞の選考をしていたことがありました。受賞の知らせを受け取った時、「あっ、これは間違いだ。」と思って、すぐに学会事務局に電話をしました。「優秀論文賞には、確か年齢制限があったと思います。私は 40 を過ぎていますので、該当しないと思います。」と告げますと、驚いたことに、「今年から、年齢制限はなくなりました。」との望外な返事を頂きました。私は教授職を務めておりますので、若い方の邪魔をしたような後ろめたい気持ちも少々ありました。しかし、私よりも年長な開業医の先生でも、真摯にインプラントの臨床に取り組み、その結果を地道に本学会誌に投稿されている方が多数いらっしゃいます。そのような方を年齢だけで、排除する必要はないと思います。その点で、理事長はじめ役員の方のご英断に敬意を表します。私も、ぜひ、もう一度この賞を頂けるように精進したいと考えております。

学会奨励論文賞受賞者紹介



岸田 剛
千葉県市川市
岸田歯科医院

この度、学会奨励論文賞をいただき大変光栄に思っております。本論文は、私が勤務医として 8 年間勤務した伊東歯科医院（熊本県）の伊東隆利先生、九州歯科大学の横田 誠先生が以前から研究していたインプラント周囲組織の歯周病学的指標による観察をさらに細分化したものです。対象として単独植立インプラントについて検討しましたが、前歯部と臼歯部では植立深度、インプラントのサイズなどの条件が統一できないため、両者を分けて検討することにしました。臼歯部のデータは、2 年前にすでに日本口腔インプラント学会誌に掲載されていますので参照していただくと幸いです。そこで、今回は前歯部単独植立インプラントに対象を限って検討を行いました。今ではインプラントの経過観察の項目にプロービングがあっても異論を唱える人は少ないのですが、数年前までは学会で発表してもフロアの反応も今ひとつで、なかなか認められない分野でした。そのような状況なので論文化するのにもかなり苦労し、5 回ほど編集委員とのやりとりがありました。査読が厳しかったので、結果的に論文のレベルが向上したことが、学会奨励論文賞を頂いた要因と考えています。今となっては大変感謝しています。今後も臨床を続けながらインプラントの経過観察の手法を検討していきたいと思っております。

学会特別功労賞受賞者紹介

以下の 3 名の先生が平成 17 年度学会特別功労賞を受賞されましたので、先生のご略歴等をご紹介いたします。



梅原正年先生

職歴等

1933年10月5日生まれ
東京歯科大学大学院歯科補綴学専攻終了
弘前大学口腔外科助手
弘前大学口腔外科（皮膚科）講師
弘前市開業
岩手医科大学補綴学教室講師
岩手医科大学口腔病理学教室講師
東京歯科大学歯科補綴学講師
弘前歯科医師会副会長
青森県社会保険診療報酬支払基金審査委員会委員
学会活動
日本口腔インプラント学会常任理事
日本口腔インプラント学会東北・北海道支部長
日本口腔インプラント学会用語副委員長
日本口腔インプラント学会表彰委員長



添島義和先生

職歴等

1936年12月28日生まれ
東京歯科大学卒業
九州大学医学部歯科口腔外科教室入局（副手）
熊本大学医学部第一解剖学教室（研究生）
熊本市にて開業
熊本市歯科医師会学術担当理事
熊本大学医学博士受領
日本審美歯科協会設立初代会長
九州大学歯学部非常勤講師
ITI フェロー
東京歯科大学臨床教授
日本歯科医学会評議員
学会活動
日本口腔インプラント学会常任理事
日本口腔インプラント学会副会長
日本口腔インプラント学会指定研修施設長
日本口腔インプラント学会九州支部長
日本口腔インプラント学会認定委員長



工藤啓吾先生

職歴等

1935年11月20日生まれ
日本大学歯学部卒業
岩手医科大学歯学部（口腔外科学第1講座）教授
盛岡市立病院歯科科長（非常勤）
岩手県立南光病院歯科（非常勤）
学会活動
日本口腔インプラント学会評議員・理事・常任理事
第15回日本口腔インプラント学会東北・北海道支部学術大会長
日本口腔インプラント学会用語副委員長
日本口腔インプラント学会編集委員長

名誉会員紹介

中村 義先生が名誉会員になられましたので、ご略歴等をご紹介します。

職歴等

1927年3月29日生まれ
東京歯科医学専門学校（現東京歯科大学）卒業
福井医科大学第二解剖学講座研究生
郵政省福井通信診療所勤務
中村歯科医院継承
臨床器材研究所研究員
朝日大学歯学部非常勤講師
福井市歯科医師会長
福井歯科専門学校校長
福井歯科インプラント研究会会長
学会活動
日本口腔インプラント学会評議員・理事
第10回日本口腔インプラント学会近畿・北陸支部総会実行委員長
日本口腔インプラント学会終身指導医

第35回(社)日本口腔インプラント学会総会・ 学術大会を振り返って

大会長 木村博人
弘前大学医学部歯科口腔外科学講座

平成17年9月17, 18日の2日間、第35回(社)日本口腔インプラント学会総会・学術大会を東北・北海道支部の主管により、弘前市において開催致しました。学術大会の前日16日には、理事会、研修施設長会議などの諸会議に引き続き認定医更新用教育講座(後藤昌昭先生)が開催されました。

今期、(社)日本口腔インプラント学会の統一学術テーマは「先進展開するインプラント治療」とされておりましたが、本大会のサブテーマは、若干の整合性に欠けると思いつつも、「エビデンスとコンセンサスを求めて」と致しました。その意図するところは、本学会が「日本歯科医学会加

入」と「社団法人認可」という記念すべき門出を迎えたことを踏まえ、本大会では真摯な発表と討論を通じて口腔インプラント診療に関するコンセンサスが醸成され、その成果が社会的説明責任に繋がることを期待するという点にありました。

特別講演、シンポジウム、ワークショップなどもそのような観点に沿って企画しましたが、特に、シンポジウムでは「診療ガイドライン」と「即時荷重」を主題としたところ、多角的な視点からの有意義な発表と討論がなされ、会場も盛況であったことから、今大会のサブテーマにふさわしい企画だったのではないかと自負しております。

特別講演では、Rosenberg教授とNishimura教授にインプラント治療のエビデンスについて講演を頂きましたが、非常に有意義で示唆に溢れた講演となりました。また、医療紛争防止に関する古川俊治先生の講演からは、インプラント診療における医療人の法的・倫理的コンセンサスが重要であることを改めて認識させられました。国際ワークショップでは、韓国ならびにシンガポールのインプラント診療の現状(金 鴻基先生, Dominic WH Leung 先生)を紹介して頂きました。日本におけるインプラント診療が国際的にみても



総会では新理事が初めて一同に会し、粛々と議事が執り行われた



デンツプライ賞受賞者(山根 進先生、田島伸也先生)を囲んで記念撮影

引けをとらないことは周知の事実ですが、国際標準に沿った治療体系の確立と共有化を再認識させられたところです。

一方、ランチョンセミナーは井上 孝先生、上田 実先生にご講演頂きましたが、いずれも特別講演に匹敵するような最先端の学術講演で、少しもったいないような気がしました。さらに、卒前教育に関するワークショップ（渡邊文彦先生、松浦正朗先生）や歯科衛生士セッション（茂木美保先生）・歯科技工士セッション（木村健二先生）なども非常に有意義なものでしたが、一般口演発表などと重なり多くの会員に聞いて頂けなかったのが心残りでした。一般口演やポスター発表が同一時間帯に重複するのは致し方ないとしても、学術大会2日目の特別講演、ワークショップ、シンポジウムなどが重なってしまったのは若干欲張り過ぎたかなと大いに反省しているところです。

今回の学会運営に関しましては、学会場が弘前公園を挟んで4カ所に分散されたため会場間の移動が大変であったこと、それにもまして当地の宿泊施設数が不十分であったことなどから、参加された方々にはいろいろご辛抱頂きましたこと、改めてお詫び申し上げます。また、大会初日に開催された社団法人化初の総会は、新理事が壇上に揃い多数の会員が参加するなか、粛々と議事を進行することができました。当日夕刻より開催された会員懇親会には予想を超える会員のご参加を頂きましたが、歯科医学会加入と社団法人化の慶びに満ち溢れ、学会運営の労苦も忘れるほどの大盛

況で、誠に有り難くも感慨深い宴となりました。

最後に、川添堯彬理事長を始めとする本学会理事の諸先生ならびに学術委員会の諸先生には、本大会の企画・運営に対し多大なるご協力とご助言を頂きましたこと心よりお礼申し上げます。加えて、お忙しいなか、座長を担当された諸先生ならびに本大会にご参加頂いた会員の方々、本学会事務局の皆様など多くの関係者より心暖まるご助力を頂きましたこと重ねてお礼申し上げます。

大会期間後半は若干天候が崩れましたが、本大会参加者の皆様には、真剣かつ熱心に発表・討論して頂き、収穫の秋にふさわしく実りあるコンセンサスが形成される端緒となったのではないかと感じております。社団法人日本口腔インプラント学会が、社会のニーズに適切に対応し輝かしい発展を遂げますことを祈念しつつ、総会・学術大会の報告と致します。



会員懇親会で挨拶される川添理事長



多数の来賓・学会員が参加され大盛況となった会員懇親会



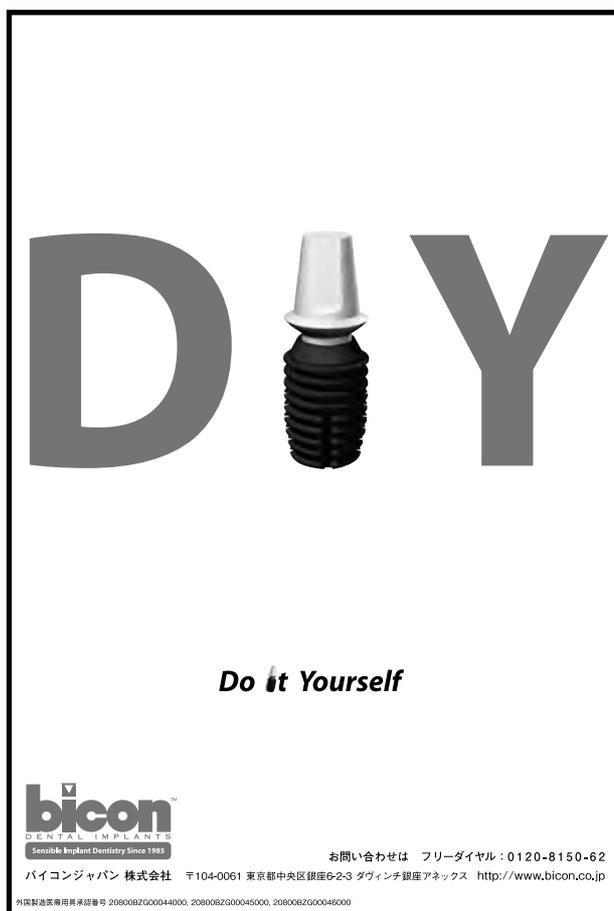
懇親会で談笑される特別講演講師のお二人

第36回(社)日本口腔インプラント学会学術大会案内

- 開催日：2006年9月15日(金), 16日(土), 17日(日)
 会場：朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)
 大会長：畑好昭(日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座)
 準備委員長：渡邊文彦(日本歯科大学新潟生命歯学部口腔インプラントセンター)
 メインテーマ：先進展開するインプラント治療
 ——人種, 食生活によりインプラント治療に違いがあるか——
- 特別講演Ⅰ 9月16日(土)9:00～10:30
 「歯周補綴とインプラント」
 佐藤直志(湯沢市開業)
- 特別講演Ⅱ 9月16日(土)10:30～12:00
 「萎縮した歯槽堤におけるインプラント埋入部の改善—最良の審美的結果のための骨採取と移植のコンセプト—」
 Axel Kirsch(ドイツ開業)
- 特別講演Ⅲ 9月17日(日)10:30～12:00
 「インプラント支持のオーラルリハビリテーションのための極度に萎縮した歯槽骨突起の再建」
 Tateyuki Iizuka(スイス・ベルン大学)
- 特別講演Ⅳ 9月17日(日)15:30～17:00
 「インプラント治療の普及と歯科治療の転機」
 筒井昌秀(北九州市開業)
- 招待講演 9月16日(土)11:00～12:10
 「インプラント植立のための歯槽骨仮骨延長術の宿命」
 Myung-Jin Kim(韓国)
- 教育講演 9月17日(日)9:00～10:30
 「歯槽骨の水平および垂直骨量増生における手順と現在の傾向」
 Fred Bergmann(ドイツ開業)
- シンポジウムⅠ 9月16日(土)13:30～15:30
 「ティッシュマネージメントの実践」
 Carlos E. Nemcovsky(イスラエル・テルアビブ大学), 石川知弘(浜松市開業), Lin Ye(中国・北京大学), Joseph Y. Kan(米国・ロマリダ大学)
- シンポジウムⅡ 9月16日(土)15:30～17:30
 「インプラント治療の適応症の拡大」
 Thomas D Taylor(米国・コネチカット大学), Myung-Rae Kim(韓国・梨花女子大学), 河奈裕正(慶応大学), 清川兼輔(久留米大学)
- シンポジウムⅢ 9月17日(日)13:30～15:30
 「インプラント表面性状と周囲組織」
 Narong Lumbikanonda(タイ・チュラロンコン大学), 宮崎 隆(昭和大学), Clark Stanford(米国・アイオワ大学), Pill-Hoon Choung(韓国・ソウル大学)
- アジアセッション 9月17日(日)9:00～12:00
 「人種, 食生活によりインプラント治療に違いがあるか」
 Surakit Visuttiwattanakorn(タイ), 飯島俊一(日本), Young-Ku Heo(韓国), 杉山貴彦(日本), Jau-Min Hong(台湾), Richard Leesungbok(韓国)
- 認定医更新用教育講座 添島義和
 歯科技工士セッション 行田克則, 小田中康裕, 山口芳正, 上林 健, 倉嶋敏明, 鶴巻春三
 歯科衛生士セッション 宮田 隆, 佐々木美幸
 市民フォーラム 花田晃治, 萩原芳幸
- 連絡先：〒951-8580 新潟市浜浦町1-8
 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座
 TEL：025-267-1500(内線315) FAX：025-231-0231
 E-mail：implantology@ngt.ndu.ac.jp
 大会ホームページ：http://www.jsoi2006.jp/

目 次

本号のトピックス（社団法人日本口腔インプラント学会法人設立記念祝賀会のご報告、優秀研究発表賞・デンツプライ賞・学会優秀論文賞・学会奨励論文賞受賞者紹介、第36回学術大会(新潟)のご案内) ……	1
これからは社団法人として活動しよう！ ……	2
社団法人日本口腔インプラント学会法人設立記念祝賀会 ご報告 ……	2
祝賀会写真 ……	3
祝賀会：出席者表 ……	6
優秀研究発表賞受賞者紹介 ……	9
デンツプライ賞受賞者紹介 ……	9
学会優秀論文賞受賞者紹介 ……	10
学会奨励論文賞受賞者紹介 ……	11
学会特別功労賞受賞者紹介 ……	11
名誉会員紹介 ……	12
第35回(社)日本口腔インプラント学会総会・学術大会を振り返って ……	13
第36回(社)日本口腔インプラント学会学術大会案内 ……	15
広報委員会からのお知らせ ……	8
目次 ……	16
広告 ……	8, 16



D  **Y**

Do it Yourself

bicon
DENTAL IMPLANTS
Sensible Implant Dentistry Since 1982

お問い合わせは フリーダイヤル：0120-8150-62
バイコンジャパン 株式会社 〒104-0061 東京都中央区銀座6-2-3 タウンス銀座アクセス <http://www.bicon.co.jp>

外国製造業専業長年登録番号 208008Z000044000, 208008Z000045000, 208008Z000046000



Happy Smiles & Heartful Communication

3DX FPD – Full Digital System
三次元デジタル時代、はじまる。

3DX MULTI-IMAGE MICRO CT FPD
スリーディーエックス マルチイメージ マイクロCT

新世代のデジタルX線センサー「フラットパネルディテクタ (FPD)」搭載。
少ない線量で高品質な三次元画像を提供します。

インプラント、根尖病巣、顎関節、埋伏歯などの幅広い精査、診断が可能。

- 切替可能な撮像領域 φ40×H40mm・φ60×H60mm
- 撮像領域が大きくても高解像度を維持 ボクセルサイズ0.125mm 解像度2.0lp/mm
- 軟組織から硬組織まで描出 広いダイナミックレンジと豊かな階調表現能力
- ワンデータビューアソフト ■ ボリュームレンダリング表示
- 院内ネットワーク対応

販売名 スリーディーエックス マルチイメージ マイクロCT
標準価格 30,000,000円 2006年5月21日現在 消費税別途
医療機器承認番号 21200BZZ00757000

発売 **株式会社モリタ** 製造販売・製造 **株式会社モリタ製作所**
www.dental-plaza.com